

新春ドリーム対談

見る信じる「夢」のチカラ

明けましておめでとう！

2023年、新しい一年の幕開け、皆さまますます大きな「初夢」は見られましたか？
まったく違うジャンルで活躍しながら、「夢を諦めないで」と同じ言葉を伝え続けている、もーりー守山ふるさと大使の直木賞作家・今村 翔吾さんと元Jリーガー・村田 和哉さんによるスペシャルな対談が実現しました。

夢がかなうまでには 自分だけのストーリーがある

村田さん メディアでも取り上げられていたけれど、今村さんは子どもたちに「夢を諦めてるやん」と言われて、30歳から小説家をやりはじめたと。異色の経歴ですね。

今村さん 小説家は現役生活が長いから、30歳になっていろいろ考えてから挑戦できたけれど、スポーツ選手は若い時に決断しなければいけないよね。プロの世界に飛び込むのは怖くありませんか？

村田さん 怖くはありませんで

した。将来Jリーガーになりたい夢が現実になるって、すごくワクワクしました。

私が小学生の時、サッカー日本代表だった井原 正巳さんが守山市のイベントに来て、滋賀県出身だと知りました。テレビの中の存在だと思っていたJリーガーの夢がリアルになった瞬間でした。その後、体育教師の勉強をしていた大学を卒業する時に、夢がかなってJリーガーになりました。

今村さん 私はもともと小説家になりたくて本を読みまくってました。だけど、家業のダンス教室を継がないといけないと思っていて。30歳になった時

自分が本当にやりたいことは何なのか考えて、小説家が第2の人生ですね。小説を書く前に仕事を辞めているっていうやばいやつでした。その後、守山市の嘱託職員になって文化財発掘をしたけど、必死でやったよね。小説家めざしていますって公言して、朝5時から出勤まで、帰ってから深夜まで書いて。その頃は毎日3〜4時間くらいしか寝ない日が続いていました。

結論は挑戦した人だけの権利 夢を語る人を増やしたい

村田さん Jリーガーを引退した、私の第2の人生は「滋賀にJ

リーグを」という壮大な夢に挑戦することです。

今村さん おお、すごい。
村田さん 海外挑戦に失敗してJリーガーを辞めかけた時、清水エスパルスがもう一回サッカー選手をやらせてくれた。感謝しなくて、チームと静岡のためにも何でもやるつもりでした。それで、まさに飛び込んでみて、Jリーグがまちのシンボルになっていると気付きました。子どもたちの憧れや希望になっていたり、おじいちゃんおばあちゃんの活力になっていたり。サッカー教室や小学校などで夢授業をするようになったのも、その頃からです。滋賀の夢授業で「夢がない」という子どもたちの意見を聞いて、挑戦を決断しました。周囲から「できるわけないやろ」と大反対されましたけど。

今村さん 私は昨年、「まつり旅」で守山をスタートして47都道府県270カ所を回りました。作家としてはあり得なくて、いろいろ言われていたと思う。だけど、やってみたら人間だけにそれが正解かどうか結論づける権利があると思っています。

村田さん 夢授業では夢がないという意見も聞けれど「背中を押された」とか「村田さんも

がんばってるんや。僕ももう二度やり直します」とかたくさん言葉が届きます。

今村さん 夢を語る子どもを増やしたいよね。今の大人は夢がかなわなかった時のマイナスを心配しすぎだと思います。逃げ道を考えておくのは間違いないけれど、村田さんがJリーガーを目指しながら体育の先生になろうとしたように、頑張る人はいっぱいいる。講演でも言うんですけど、子どもたちは言われなくても、結果として夢はかなわないかもしれないと分かっています。だから、25歳くらいまではポジティブに、無責任でもいいから後を押してくれるのを待っているのではないかと思っています。

目標を積み重ねて向かう夢 誰かの応援が原動力になる

今村さん 「まつり旅」の途中、1人で毎年270カ所回ることはできないけれど、270人が1カ所ずつならいけると思ってた。先頭を走る覚悟はあるけれど、ついてきてくれる人がいなかったら大きな流れは起きません。子どもたちも応援してくれる人、ついてき

てくれる人が夢をかなえる原動力になると思うんですよ。

村田さん まさに、私がやるうとしていてことです。サッカー教室の教え子が今ヴィアベンテン滋賀の選手になったり、滋賀県3部リーグの試合にマスコミや観客が集まってくれたり応援が広がってきています。私と22人の選手の夢は、応援してくれる人たちの夢でもあるわけです。そういう人を増やしていけたら、守山の新しい夢や希望になっていくと思うのです。その思いから、初戦はJリーグの試合より緊張しました。

今村さん 面白いな。村田さんはかなり向いている方向が私と似ている。こんなに似ている人はあまりいませんね。自分の夢を見るのも、こういう人に夢を託して一緒に見るのもいいですね。

小説界は右肩下がりになっていて、小学生の「なりたい職業ランキング」からも外れてしまいました。だから、私は小説家を憧れられる職業にしたいと思っています。大御所も「やれやれ」って応援してくれています。お互いに今年も、できるだけ多くの人たちに「夢を諦めるな」「夢を語れ」って伝えていけたらいいですね。



むらた かずや 村田 和哉さん

ヴィアベンテン滋賀 代表
平成23年の大阪セレッソ入団から令和3年まで活躍した元Jリーガー。

本市との縁

生まれも育ちも守山市。もーりー守山ふるさと大使の初期メンバー。
Jリーグ引退後に「滋賀にJリーグチームを」と帰郷して会社を設立し、サッカーチームを立ち上げました。



いまむら しょうご 今村 翔吾さん

直木賞作家(歴史小説・時代小説家)
平成29年に作家デビュー、令和4年1月に「塞王の楯」で直木賞受賞。

本市との縁

平成28年～30年に埋蔵文化財調査員として本市に勤務。
令和4年5月～9月に全国行脚した「まつり旅」の出発式で、もーりー守山ふるさと大使に就任。

会場：大庄屋諏訪家屋敷